

令和4年3月14日
東京都立練馬工業高等学校

令和3年度学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

(1)都立練馬工業高等学校 学校運営連絡協議会(全日制課程)

(2)事務局の構成主幹教諭(教務主任兼務)=事務局長、教務部員1名 計2名

(3)内部委員の構成

校長、副校長、経営企画課(室)長、主幹教諭(教務担当)、主任教諭(生活指導担当)、主幹教諭(進路指導担当)、主任教諭(保健相談担当)計7名

(4)協議委員の構成

蔵方康太郎(東京商工会議所練馬支部事務局長)、武川弘彰(東京中小企業家同友会理事)
竹内勝己(練馬区立練馬東中学校校長)、高島拓也(警視庁練馬警察署生活安全課長)
中村泰成(東京消防庁練馬消防署平和台出張所所長)、中島真樹(練馬キングスガーデン施設長)、窪寺孝(地域青少年育成第2地区委員会会長)、伊藤久美子(本校PTA会長)、佐々木章(小山学園中野校校長)、松村恵巳(IWC国際市民の会)、坂本治紀(日本工学院専門学校広報部長)

2 令和3年度学校運営連絡協議会の概要

(1)学校運営連絡協議会(第1回から第3回)の開催日時、出席者、内容、その他

第1回令和3年5月14日(金曜)新型コロナウイルス感染症予防対策による紙面開催
資料送付

学校運営連絡協議会趣旨説明・会則の決定、協議委員紹介、評価委員の選出、
学校経営計画・経営報告、本校の現状と課題等説明

第2回令和3年11月12日(火曜)開催(対面開催)

資料送付

現在までの教育活動に関する報告、学校評価アンケートの趣旨及び実施要綱説明

第3回令和4年2月2日(水曜)新型コロナウイルス感染症予防対策による紙面開催
資料送付

これまでの教育活動に関する報告

学校評価アンケート集計結果の分析・考察

3 学校運営連絡協議会による学校評価(学校評価報告)

(1)学校評価の観点

「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。

(2) アンケート調査の実施時期・対象・規模(かっこの数字は昨年度)

- ・ 12月全校生徒対象 :425人回収:417人 回収率:98.1(63.2)%
- ・ 12月保護者対象 :425人回収:166人 回収率:39.1(42.0)%
- ・ 12月近隣中学校対象:120人回収:120人 回収率:100(100)%
- ・ 12月教職員対象 :54人回収:27人 回収率:50.0(70.4)%

(3) 主な評価項目

学習指導、生活指導、進路指導、学校教育相談、エンカレッジスクール(30分授業・2人担任制)、新型コロナウイルス感染症予防対応(オンライン授業)、ライフワークバランスの推進

(4) 評価結果の概要(校長や学校全般への意見・提言内容)

- ・今年度の学校評価の回収については、保護者と中学生は紙ベースのマークシートで生徒及び教職員は、チームス(Microsoft Teams)のオンライン上で回答して集計作業を行った。回収数が減少した保護者、教職員は、次年度に向けて対策を講じていく。
- ・在校生、保護者、教職員とも、習熟度授業、30分授業、朝学習の制度に対し、肯定的な(そう思う・ややそう思う)評価をしている。また、オンライン授業の導入は、新たな学びのスタイルが定着する弾みとなった。その効果を検証して、今後への可能性を見極める機会とする。また、学習支援等の手立ての選択肢が増えた。

生活指導面における、「いじめ」「体罰」の学校の姿勢は、認識されている。

スクールカウンセラーの利用に関しては、教職員は充実していると回答したのに対し、生徒・保護者には、「わからない」の評価が多いのは、毎年、繰り返している。相談者として以外関わりが乏しい現状が影響している。啓発・啓蒙活動等の活用の工夫が求められた。

今回、新しく4つの設問として「学校目標」「2人担任制」「制服・頭髪」「ヘルメット着用」を設定した。学校運営において、大きな変化(改革)につながる柱となる。

(5) 評価結果の分析・考察(校長や学校全般への意見・提言に向けて)

- ・「朝学習」「30分授業」「習熟度(少人数)授業」に関しては生徒、保護者、教職員から「そう思う」の肯定的な回答が多い。制度面は支持されている。

そして、視点を「オンライン授業」は、生徒から「役立った」と7割が回答した。新しい学びのスタイルは受け入れられた。学習意欲や学習成果につながったかは、検証して、これを弾みに、多様な方法で、学習保障の手立てに反映していく。

- ・今回新たな4つの設問は、1つ目の「2つの教育目標」は、4割の生徒が、知っていると定着化がすすんだ。学校に対して帰属意識の醸成、学校生活に主体的に関わる意識の高まりにつなげていく。2つ目の「2人担任制」について、保護者は、望む回答が6割で、生徒も「効果があった」と6割を超えた回答。一方で教職員の回答は「どちらでもいい」が7割を超えている。より効果が得られるように、検証を深める余地を残した。

3つ目の「ヘルメット着用」は、生徒の命に関わり、緊急を要すること。自転車通学時

のヘルメット着用についてであったが、生徒の着用率 5 割を超えていた。年度当初から、学校長のリードのもと、学校全体での注意喚起が、反映したものである。次年度は、自転車通学許可者全員の着用を徹底させていく。

4 つ目は、「制服、頭髪」のことである。学校生活の規則・ルールに関わり方を生徒の自発性・自主性の醸成を図れるものとして、投げかけた。

3 者（生徒・保護者・教職員）共、「規定」「指定」の必要性を 7 割から 9 割が「あった方がいいと思う」と答えている。生徒の回答では、「規定」は 7 割、「指定」は 8 割と微妙な差があった。何らかの「指定」は望んでいるか。

社会人として自立できる成長を主体的に教育活動の中で育めるよう学校生活で身に着けさせる。

- ・中学生からも「30 分授業」と「習熟度(少人数)授業」に関する評価が高いことから、本校の授業展開は中学生やその保護者から期待が大きい。充実させていかなければならない。

- ・中学生から、練馬工高の生徒と一緒に体験希望が倍増した。また、特筆すべきは工業高校のイメージで粗野さ(30 ポイント減)・だらしなさ(20 ポイント減)が激減した。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題(学校の自己評価へ反映)

(1)学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・本年度も新型コロナウイルス感染症対策のために、第 2 回目は対面開催だったが、第 1 回・第 3 回は紙面開催となった。その中であっても、学校の指導内容を協議委員の皆様にお伝えすることができた。また、学校評価アンケートはマークシート式、オンライン集計を導入して、効率化、処理結果の正確さが高まった。

(2)学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・昨年にと引き続き本校がエンカレッジスクールの特徴・特長を知らない中学 2 年生が約 90%を占めているので、今後も地域連携や学校 PR を積極的に行っていく。

- ・本年度も新型コロナウイルス感染症対策のために様々な取り組み結果を検証が行われ、今後への改善と工夫を明確にできた。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項(学校経営計画へ反映)

(1)学校運営

- ・工業科エンカレッジスクールとして 16 年が経過したことを踏まえ、その特色を活かしながら、地域社会に貢献できる生徒を育成するための学校づくりを進める。

ALCM(アクティブラーニングコミュニティマネジメント)指定校、東京都国際交流リーディング校、高等教育機関(専門学校)と連携、東京都 PBL(プロジェクト・ベース・ラーニング:課題解決型学習)指定校として、全校的な取り組み先導をした。

- ・観点別評価及び評価方法について、引き続き検討して、円滑な導入に向ける。

・入学者選抜委員会を中心に令和5年度入試について、今までの生徒の実態を踏まえて見直しをしていく。(実技試験等の内容)

(2)学習指導

・校内寺子屋事業について、1学年対象で継続。まだ、全学年対象の拡大まで至っていない。

・全校的に、より良い学習環境の保全のため、授業中の巡回を実施し、中抜け等の問題行動はその場で指導を行った。

(3)特別活動

・新型コロナウイルス感染症予防対策の影響により文化祭や体育祭などが中止となり、保護者・中学生などに取り組みを見せることができなかった。今後とも生徒のクラスへの帰属意識を高める行事になるような計画を図っていく。

(4)生活指導

・学校目標である「あいさつを大事にできる職業人の育成」「社会人として必要な能力の修得」を徹底するため、朝の立ち番など組織的・計画的に指導を行った。

・新型コロナウイルス感染症予防対策に基づく、部活動や学校行事を実施した。

・学年と連携し、中抜け生徒に対する共通指導、放課後職員全員で行う巡回体制を取り組み、的確な対応ができた。

・次年度自転車通学許可者全員のヘルメット着用の移行期間として、自転車交通安全教室など広報と事前のアナウンスを徹底して、浸透させた。

(5)進路指導

・自ら進路目標を決め、その実現のために、3年間の指導内容を系統的・体系化したガイダンス計画を、教育課程に反映させていく。

・インターシップの円滑な実施体制の確立。新たに1学年での実施に向けて、早急に計画していく。

・ハローワーク池袋、ねりま若者サポートステーション等の外部団体とユースソーシャルワーカー等の連携を進めている。

・全校が一丸になって、専門的な学習や職業に関わる資格取得を目指すため、就職に耐えられる基礎学力の定着させる方策を検討し運営する役割を担う。

(6)健康安全

・新型コロナウイルス感染症に関する、対策を立案して、手指消毒剤の校内設置リストの作成と設置、消毒用スタンドを製作した。

・学年、自立支援担当と情報の共有を円滑する体制を充実させた。スクールカウンセラーからのフィードバックに担任を参加させ、その結果を共有できるように、書面作成を徹底した。

・通級が始まり、教育相談業務の比重が増えた。業務負荷が多くなり、個別の教育支援に支障がないようにすすめるため、業務のルーティン化や外部専門家を用いたWISC、WAISなどの発達検査の校内実施体制の構築化を図った。

(7)キャリア技術科

- ・オンライン授業の新たな開発・改善を図りつつ、わかりやすい授業のための教材開発、ICT機器を使用した授業、そこに最新の工業技術を反映した、実習機材を駆使させていく。
- ・3年次に6系統から5系統に変更した。これに伴う、教科指導の確立を新教育課程に留意させていく。
- ・専門学校と連携した教育課程の構築、これまでの資格取得に向けた補習体制の充実並びに新たな資格に挑戦させている。
- ・工業科の特色ある教育活動が、魅力あるものとして、広報活動や一日体験入学、わくわくどきどき夏休み工作スタジオなど新型コロナウイルスの感染症予防対策をして実施する。
- ・生徒の課題研究発表会などを通じて、その成果を発信していく。

6 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

協議委員は、職員会議及び企画調整会議には参加していない。

7 その他

特になし